

報のやり取りのデジタル化が必
要だとした。

シンポジウムのテーマである
官民パートナーシップについ
て、「現場からのビビッドな活
動を聞くことが重要」(御厨

氏)、「転換期はリスクだけで
なく、チャンスも生まれる。そ
れを活用するには官民パートナ

ーシップが不可欠」(菅原
氏)、「NACCSが利用者の
ニーズに添えていくには新しい

技術、新しい時代に向き合うこ
とが必要」(平松氏)と強調し

た。
岡藤氏は、ミャンマー、モン
ゴルの通関業会とのMOU(覚
書)をはじめ海外交流に意欲を

見せるとともに、「通関士自身
が専門性を高め、幅広い知識を
身に付け、より高度なコンサル

を通じて、依頼者に貿易取引を
提案できるような通関士を育成
する。ダイバーシティの推進や

働き方の革新を進め、若い優秀
な人材が入ってくる業界にした
い」と述べた。

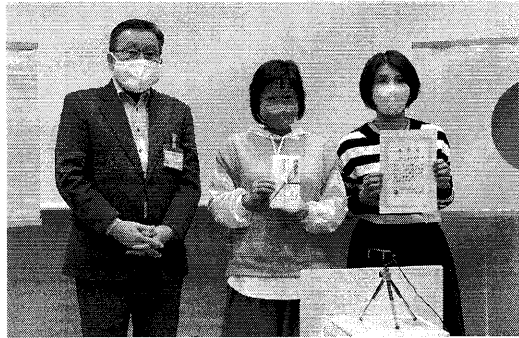
川崎陸送

QCサークル代表発表会を開催

「サークルKF4」が優秀賞

川崎陸送(KRT、本社・東京都港
区、樋口恵一社長)は11月26日、第57回
KRT QCサークル代表発表会を東京
都内で開催した。会場とリモートを組み
合わせ、予選を勝ち抜いた10サークルが
活動の成果を報告。輸入食品の流通加工
作業で、「QC7つ道具」のひとつである
「管理図」を用いて生産数拡大に挑戦し
た「サークルKF4」(葛西流通センタ
ー)が優秀賞(第1位)に選ばれた。

「サークルKF4」は、ブイヨンパウダ
ーの流通加工で、作業ラインおよび作業
方法の改善を実施。効率的なライン組
み、人員配置・役割分担変更を行い、商
品の流し方(数量・セット方法など)を
変更し、作業スピードを向上させた。ま
た、「管理図」という新しい手法を活用



表彰式で樋口社長(左)と「サークルKF4」

して時間あ
たりの生産
数を確認し
た。

優良賞

(第2位)

の「チーム
きのたけ」
(坂戸流通
センター)
は、「セル
生産方式」
で行ってい

る取り扱い商品の1人・時間あたりの生
産性向上に挑戦。年齢層が幅広く、作業
レベルの異なる一人ひとりの適応力に合
わせた改善により、向上心を強化。全員が
ムリなく作業できる作業環境を整えた。

努力賞(第3位)でケミカル輸送を担
う「ひまわり」(赤穂営業所)は、従
来、荷主が製造順に置き場所に運び、ば
らばらに置かれていた出荷コンテナを、
川崎陸送が運んで並べるように変更。コ
ンテナを探しやすくするとともに、置
き場所の一覧表も作成し、乗務員のコン
テナ積み時間を短縮した。

32の優秀提案受賞案件も発表され、西
多摩営業所の池谷剛氏、裕誠治氏連名に
よる「大型車両ウイングの箱内カメラ」
の提案が最優秀賞に輝いた。玄関等に使
用するカメラを大型車のウイング箱内に
取り付け、運転時に箱内の荷物の状況を
見られるようにしたもので、停車時間の
削減に寄与するとされた。

全体講評では、①注目してほしい数値
データをクローズアップすること②目標
設定の数字の根拠を示すこと③金額の効
果のみならず、無形効果や波及効果もア
ピールすること④「管理の定着」「歯止
め」を忘れないこと——など助言があつ
た。このほか、江川、赤穂両営業所でケ
ミカルローリーに代わる3tコンテナを
導入したことが報告された。